

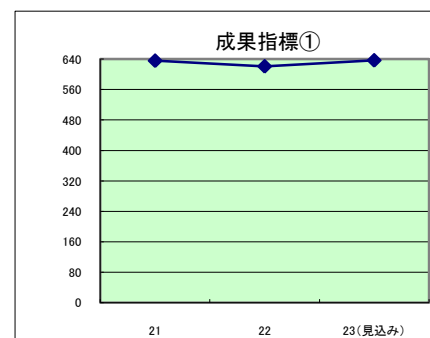
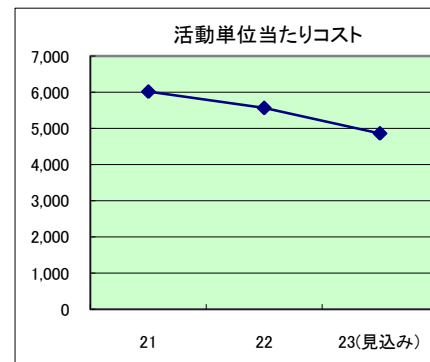
平成 23 年度 事務事業評価シート(平成 22 年度実施事業)

整理番号

生産03

事務事業名		貸し農園事務		会計	1	一般会計	
				款	6	農林水産業費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち	項	1	農業費	
	施策(節)	6	都市農業	目	3	農業振興費	
	施策の方向	(1)	都市農業の振興	事業	1	農業振興	
関連する計画等				作成部署	生活環境部産業振興課		
事業の目的	対象(誰を・何を)			連絡先	072-958-1111 内線 2761		
	市民						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	市民が農作業体験を行うことのできる場を提供する。						
	施設整備及び管理を羽曳野市農研クラブ連絡協議会が行い、都市化が進む羽曳野市において、市民自らが農作物の栽培を行い、食の安全・安心への関心や農業に対する理解を深めてもらうことを目的に体験農園事業を展開している。また、運営の規模画数は760区画(14,131㎡)で、1区画当たりの面積15~20㎡、体験農園12箇所を開設しており、使用期間、23ヶ月である。						
根拠法令等							
事業開始時期		☒ 昭和 57 年開始 ☐ 明確にはわからない ☐ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度	平成	年度	
事業開始時からの状況変化		都市化の進展に伴い、市民の体験農園に対するニーズ・関心は高まっている。					
市民や議会の要望							
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容			

区 分		21年度	22年度	23年度	
		(実績)	(実績)	(見込み)	
事業費【1】 (千円)		0	0	0	
人件費【2】 (千円)		3,936	3,546	3,096	
職員数	正規職員	0.52 人	0.40 人	0.40 人	
	再任用職員	0.00 人	0.30 人	0.00 人	
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	
	臨時職員	0.02 人	0.02 人	0.12 人	
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		3,936	3,546	3,096	
財源内訳	国費 (千円)				
	府費 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (手数料・使用料等) (千円)				
	一般財源 (千円)	3,936	3,546	3,096	
活動指標(事業の活動実績)【B】		単位	21年度	22年度	23年度(見込み)
① 区画提供数	区画	654	637	637	
②					
③					
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】①)		6,018 円	5,567 円	4,860 円	
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		33 円	30 円	26 円	



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成21年度		平成22年度		平成23年度
	①	利用区画数 (式)	区画	区画提供数(目標)のうち実際の利用状況を見る。	目標	654	637	達成率(%)	637
					実績	636	621	97.5%	
	②	(式)			目標			達成率(%)	
					実績				

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	農業者以外が、野菜等を栽培し、自然にふれ合うとともに農業に対する理解を深めるうえで、市の関与は必要である。

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	市民が「農」や「食」に関する人々の活動への理解を深めるため、一連の農作業等の体験の機会を提供することは妥当である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☒	☐	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	農研クラブが管理運営を担っており、市が費やす事業費や人員は必要最小限のものである。
		受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	市民に農作業等の体験場の提供を行うことで、地域活性化に寄与する。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☐	☒	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	農研クラブ連絡協議会の役員が主体となって活動しており、事業計画は協議会で決定する。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	利用区画数は、前年度を下回っているものの、ほぼ目標は達成している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☒	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	体験農園を通して、市民に広く都市農業への理解が深まっている。 今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 体験農園を通して、体験農園者の技術の向上を目指すとともに、健康づくりや、収穫の喜びを期待している。	
	総合評価	
行革本部評価	☒ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価理由・意見	